

「第7期出雲市障がい福祉計画」、「第3期出雲市障がい児福祉計画」への意見反映について

番号	キーワード	委員からのご意見等	対応・考え方・修正	素案 該当箇所
1	予算	計画を立てても予算の裏付けがないとできない。予算がついていても目標値を達成しなければその原因を精査する必要がある。	予算に関しては必要な予算の確保に努める。目標値や事業の達成状況については、適切に評価・検証を行っていく。	
2	者児共通	p13の活動指標件数は、障がい児の件数も含めているので、障がい児を含んでいることを明記すべき。	障がい福祉計画の施策は、障がい者も障がい児も一体的に進めていくものとして策定し、取り組むこととしているため、p2に次のとおり追記する。(下線部が追記箇所) 「 <u>障がい福祉計画の基本施策は、障がい者及び障がい児について一体的に策定します。</u> 」	p.2 p.13
3	相談	p13活動指標「中核相談支援事業所による地域の相談支援事業所に対する専門的な助言・人材の育成支援」について「訪問等による専門的な指導・助言件数」の表記がわかりにくい。	次のとおり修正する。(下線部が修正箇所) 「 <u>訪問等による事業所に対する専門的な指導・助言件数</u> 」	p.13
4	処遇改善	厳しい福祉職場の声を聞き、福祉施設職員の最低賃金を上げていく取り組みをお願いしたい。	処遇改善の必要性は感じている。市が独自に行う施策としては、効果や継続性に課題があるため、国や県に対して、報酬水準や仕組みの検証・充実等を図るよう要望する旨、計画に掲載しているが、引き続き、強く要望していく旨を次のとおり追記する。(下線部が追記箇所) 「 <u>処遇改善については、報酬水準や仕組みの検証・充実等を図るよう国や県に強く要望していきます。</u> 」	p.15
5	災害	令和4年5月に障害者情報アクセシビリティ法が制定されて、デジタル化が進む中で災害に関することに触れられていないと思った。	次のとおり追記する。(下線部が追記箇所) 「 <u>情報伝達については、ICT機器等の多様な伝達手段を活用し、障がいの有無に関わらず、安全かつ円滑な支援につながる正確な情報を迅速に提供します。</u> 」	p.19
6	社会参加	障がい者の社会参加について、障がい者同士または、地域住民とのつながりによって支えていくことが大切であると考えます。	p22に次のとおり追記する。(下線部が追記箇所) 「 <u>障がい者の参加意欲を高めるために、地域住民の障がいに対する理解や障がい者とのつながりを深める等、障がい者が参加しやすい環境を整えていくことが求められます。</u> 」	p.22

番号	キーワード	委員からのご意見等	対応・考え方・修正	素案 該当箇所
7	早期支援	発達障がい児への支援の取組について、具体的にどのような取組が行われるのかわかりにくい。具体的な成果目標を掲げ、どのように動いてどうなったのかわかる評価等を示すとよくわかる。	障がい児への早期支援については、心理相談員による巡回相談等、市子ども未来部で取り組んできた経過を踏まえ、必要に応じて事業を整理したうえで、具体的な施策を年度ごとに事業計画を立て、取り組んでいく。 ご意見は今後の計画の評価・検証において対応する。	p.61
8	医ケア	p62の活動指標にある「医療的ケア児に対する関連分野の支援を調整するコーディネーターの配置人数」とはコーディネーター養成研修の終了者で各事業所に配置されている人数のことか。	ご意見のとおり。	p.62
9	医ケア	p62(4)医療的ケア児への支援の記述について 「多分野にまたがる支援の調整役として、相談支援専門員、保健師、訪問看護師等をコーディネーターとして養成し、医療的ケア児の支援のための協議の場へ参画させることで、円滑な利用調整を行います。」の部分の取組は、現在、医療的ケア児支援センターや保健所を中心に取り組んでいると認識しているが、本取組における市の具体的な関わり方を追記してはどうか。	いただいたご意見のp62(4)の本文中にある医療的ケア児に必要な支援の利用調整等については、市において取り組んでいない内容が含まれているため、次のとおり修正する。 (下線部が修正箇所) 「 <u>医療的ケア児に必要な支援の円滑な利用調整のため、支援のための協議の場に参画して多分野にまたがる支援の調整役となる人材を養成します。</u> 」 なお、人材養成の具体的な取組内容について、同ページ(p62)に次のとおり掲載しているが、文中の「コーディネーター」は、No8のご意見のとおり同ページ(p62)の活動指標で示している「コーディネーター」が特定のコーディネーターを指す一方で、一般的な調整役としての意で使用しているため、次のとおり修正する。 (下線部が修正箇所) 「 <u>・医療的ケア児の支援の方法、関係機関との連携について研修を開催し、関連分野の支援を調整するコーディネーター人材を養成します。</u> 」	p.62